

人口と世帯

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-04-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00053910

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



2. 人口と世帯

西本 陽一

1. はじめに
2. 人口と世帯

3. おわりに

1. はじめに

本章では、人口と世帯にかんする数値データを通して、門前地区の現状と変化を見てゆく。基本となるのは、平成 30 (2018) 年 6 月 8 日付の門前地区住民基本台帳データであり、それを国勢調査にもとづく日本全体のデータと比較することで、門前地区の特徴が浮かび上がってくるだろう。

2. 人口と世帯

表 1 は住民基本台帳による 2018 年 6 月 8 日現在での門前地区の人口および世帯の状況で、人口 1,606 人、世帯数 758 世帯、1 世帯あたりの平均成員数は 2.12 人である。平成 28 (2016) 年国民生活基礎調査によると、日本全体では 1 世帯あたりの平均成員数は 2.47 人であり¹、2 年の差があるものの、門前地区の世帯規模は日本全体のそれより小さいことが分かる。

平成 27 (2015) 年国勢調査によると、日本の「総人口を男女別にみると、男性は 6184 万 2 千人、女性は 6525 万 3 千人で、女性が男性より 341 万 1 千人多く、人口性比（女性 100 人に対する男性の数）は、94.8」であるが、平成 30 (2018) 年 6 月 8 日時点の門前地区の人口性比は、90.1 であり、総人口と比較して女性人口の割合が多いことが分かる。日本では男性よりも女性の平均寿命が長いことを考えると²、この結果は門前地区の高齢化と関係していると推測される。つまり、若年層の流出によって高齢者の割合が大きくなったことから、人口全体における女性人口の割合が大きくなったと考えられる。

表 2 は門前地区の各区を「山間集落」「団地」「低地集落」に分けて、各地区の人口、人口の割合、世帯数、世帯数の割合、平均世帯員数を示したものである。

人口の割合と世帯数の割合は同じぐらいの数字を示している。人口と世帯数のどちらも「低地集落」が全体の 85% 以上を占めて最も大きく、「団地」が 9% 弱、4 集落からなる「山間集落」は 5% 前後である。一世帯あたりの平均成員数を見ると、低地集落で 2.15 人、団地 2.12 人、山間集落 1.65 人で、山間集落における世帯規模の小ささがはっきりしている。

¹ 厚生労働省政策統括官（統計・情報政策担当）2018 『グラフでみる世帯の状況：平成 30 年国民生活基礎調査（平成 28 年）の結果から』厚生労働統計協会。

² 厚生労働省の「平成 29 年簡易生命表」によると、男の平均寿命は 81.09 年、女の平均寿命は 87.26 年である。

より広い耕地および役所や企業の存在ゆえに低地の方が山地よりも人口扶養力が大きく、その結果、歴史的に山地には小規模な集落が散らばって形成される一方で、低地の八ヶ川周辺の平野には商業や勤め仕事を主な生業とするより大きな集落がより集中して形成されてきたことがうかがえる。さらに、山間集落はより早い時期から都市への出稼ぎを出してきた（『角川日本地名辞典 17 石川県』1981年）ことが、若年人口の流失をまねき、山間集落の世帯規模を小さくしたと考えられる。

表1 門前地区の人口と世帯数

			男 (人)	女 (人)	人口計 (人)	世帯数 (戸)	平均世帯 員数(人)
1	低地	門前	61	73	134	65	2.06
2	低地	清水	29	33	62	27	2.30
3	低地	走出	95	106	201	86	2.34
4	低地	谷内和田	31	39	70	27	2.59
5	低地	下中和田	33	37	70	38	1.84
6	団地	さくら団地(和田)	32	34	66	27	2.44
7	低地	高根尾	32	31	63	33	1.91
8	低地	本市	79	88	167	70	2.39
9	団地	本市住宅	1	1	2	2	1.00
10	低地	栃木	66	67	133	55	2.42
11	低地	深田	42	53	95	47	2.02
12	低地	広瀬	48	66	114	56	2.04
13	低地	日野尾	40	38	78	36	2.17
14	低地	鬼屋	27	36	63	32	1.97
15	低地	舘	41	45	86	46	1.87
16	低地	広岡	32	23	55	28	1.96
17	団地	広岡住宅	38	32	70	38	1.84
18	低地	西中尾	5	6	11	5	2.20
19	山間	小滝	5	8	13	8	1.63
20	山間	上河内	7	3	10	6	1.67
21	山間	猿橋	13	17	30	17	1.76
22	山間	小石	4	9	13	9	1.44
合計			761	845	1,606	758	2.12

出所：平成30年6月8日付住民基本台帳より作成

表2 門前地区の人口と世帯数

			男 (人)	女 (人)	人口計 (人)	世帯数 (戸)	平均世帯 員数(人)	人口計 (人)	人口割合 (%)	世帯数 (戸)	世帯数割 合(%)	平均世帯 員数(人)
1	低地	門前	61	73	134	65	2.06	1,402	87.30	651	85.88	2.15
2	低地	清水	29	33	62	27	2.30					
3	低地	走出	95	106	201	86	2.34					
4	低地	谷内和田	31	39	70	27	2.59					
5	低地	下中和田	33	37	70	38	1.84					
7	低地	高根尾	32	31	63	33	1.91					
8	低地	本市	79	88	167	70	2.39					
10	低地	栃木	66	67	133	55	2.42					
11	低地	深田	42	53	95	47	2.02					
12	低地	広瀬	48	66	114	56	2.04					
13	低地	日野尾	40	38	78	36	2.17					
14	低地	鬼屋	27	36	63	32	1.97					
15	低地	館	41	45	86	46	1.87					
16	低地	広岡	32	23	55	28	1.96					
18	低地	西中尾	5	6	11	5	2.20					
19	山間	小滝	5	8	13	8	1.63					
20	山間	上河内	7	3	10	6	1.67					
21	山間	猿橋	13	17	30	17	1.76					
22	山間	小石	4	9	13	9	1.44					
6	団地	さくら団地(和田)	32	34	66	27	2.44					
9	団地	本市住宅	1	1	2	2	1.00					
17	団地	広岡住宅	38	32	70	38	1.84					
合計			761	845	1,606	758	2.12	1,606	100.00	758	100.00	2.12

出所：平成30年6月8日付住民基本台帳より作成

図1 門前地区の人口と世帯数 (世帯数：戸、人口：人)

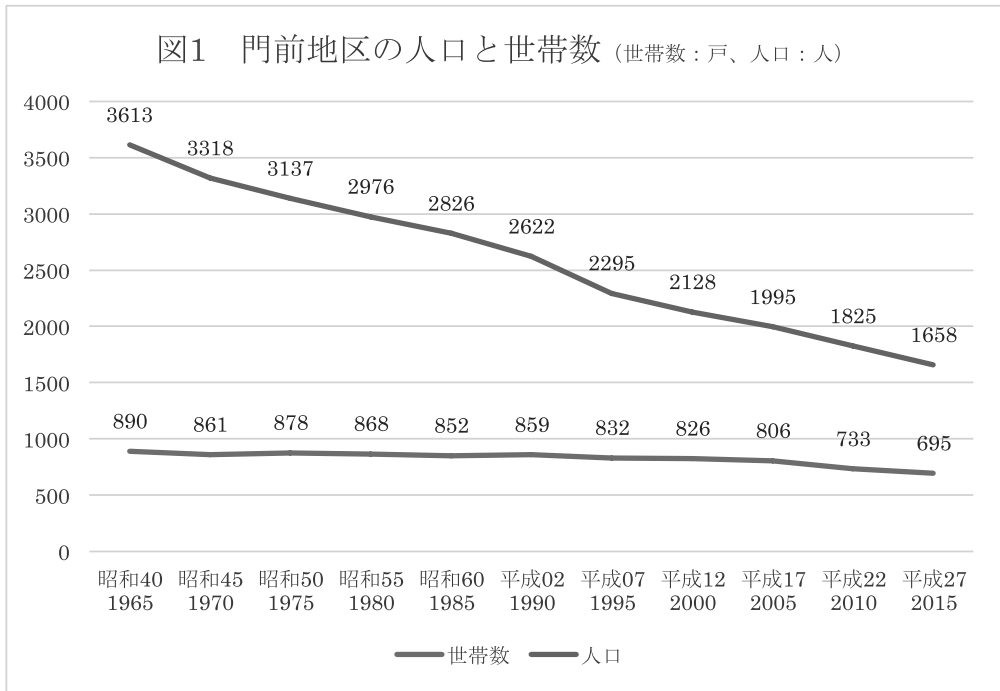


表3 門前地区の人口と世帯数（世帯数：戸、人口：人）

	昭和40 1965	昭和45 1970	昭和50 1975	昭和55 1980	昭和60 1985	平成02 1990	平成07 1995	平成12 2000	平成17 2005	平成22 2010	平成27 2015
門前	世帯数 126	118	104	101	94	96	95	85	92	73	73
	人口 476	426	386	364	329	277	237	211	194	153	147
清水	世帯数 31	27	32	33	30	34	32	32	33	27	26
	人口 148	121	108	111	101	102	92	84	81	69	63
走出	世帯数 90	89	93	87	90	94	88	86	86	82	77
	人口 350	348	340	318	301	286	238	228	217	192	181
和田	世帯数 78	77	-	84	79	75	75	101	67	65	62
	人口 320	295	-	269	277	271	240	302	185	157	143
和田（さくら団地）	世帯数 -	-	-	-	-	-	-	-	30	28	30
	人口 -	-	-	-	-	-	-	-	95	86	79
谷内和田	世帯数 -	-	38	-	-	-	-	-	-	-	-
	人口 -	-	136	-	-	-	-	-	-	-	-
下中和田	世帯数 -	-	41	-	-	-	-	-	-	-	-
	人口 -	-	141	-	-	-	-	-	-	-	-
高根尾	世帯数 28	28	28	28	29	28	28	28	27	27	26
	人口 140	137	130	119	110	101	87	80	75	69	60
本市	世帯数 71	61	62	74	78	75	75	76	73	68	59
	人口 285	250	237	278	268	247	220	191	194	174	147
本市住宅	世帯数 -	11	10	-	-	-	-	-	-	-	-
	人口 -	29	24	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木	世帯数 76	74	71	69	71	68	65	61	55	54	53
	人口 311	260	248	233	246	216	186	172	149	150	126
深田	世帯数 42	40	43	40	42	44	41	39	35	34	33
	人口 177	168	171	147	138	139	122	110	97	169	186
福祉施設（深田）	世帯数 -	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	人口 -	-	-	-	-	-	-	-	18	-	-
広瀬	世帯数 48	47	60	61	60	65	63	60	60	53	50
	人口 203	178	198	200	194	190	172	141	134	115	105
日野尾	世帯数 39	39	39	43	40	43	43	42	39	36	38
	人口 160	162	161	161	158	148	126	115	96	84	89
鬼屋	世帯数 42	37	37	32	37	36	32	31	35	26	22
	人口 157	143	135	105	103	104	92	79	82	58	48
館	世帯数 54	53	57	52	55	55	53	52	48	46	41
	人口 202	201	197	167	170	144	134	122	109	93	73
広岡	世帯数 84	29	29	32	32	28	28	26	24	31	26
	人口 296	121	110	107	96	83	75	62	64	67	57
広岡（広岡団地）	世帯数 -	54	62	62	44	50	51	47	45	35	39
	人口 -	154	167	172	130	132	123	109	97	96	84
西中尾	世帯数 8	6	6	6	6	6	6	5	5	5	4
	人口 40	31	23	28	23	21	19	15	13	14	9
小滝	世帯数 15	15	14	15	15	14	14	12	11	9	8
	人口 65	55	46	44	41	35	35	25	23	19	14
上河内	世帯数 6	6	6	6	6	5	5	5	5	5	5
	人口 36	28	19	15	20	15	11	10	10	8	8
猿橋	世帯数 33	30	29	26	27	27	24	24	22	19	14
	人口 138	115	95	86	81	77	58	48	40	36	27
小石*	世帯数 17	14	13	13	13	13	11	11	10	10	9
	人口 97	74	51	39	32	27	21	18	16	16	12
風原*	世帯数 -	4	3	3	3	3	3	3	3	-	-
	人口 -	14	10	10	7	7	7	6	6	-	-
植戸	世帯数 2	2	1	1	1	-	-	-	-	-	-
	人口 12	8	4	3	1	-	-	-	-	-	-
世帯数	890	861	878	868	852	859	832	826	806	733	695
人口	3613	3318	3137	2976	2826	2622	2295	2128	1995	1825	1658
世帯平均成員数	4.06	3.85	3.57	3.43	3.32	3.05	2.76	2.58	2.48	2.49	2.39

出所：各年の『市町地区別人口及び世帯の概数』より

*平成22年より「小石」と「風原」は「小石・風原」として一括されている。

日本全体で言えば、特殊要因（丙午など）を除くと、明治以来ずっと人口増加は続いたが、経済成長とともに合計特殊出生率は急速に低下し、平成17（2005）年の国勢調査で前

年人口を下回り、人口は減少局面に移行した。一方で、全国の世帯数は昭和 45（1970）年の 30,297 千世帯（一般世帯）から平成 27（2015）年の 53,332 千世帯へと増加を続けてきたが、1 世帯あたりの平均成員数は 3.41 人（1970 年）から 2.33 人（2015 年）へと漸減してきた。

表4 門前地区男女別年齢層別の人口構成

年齢層 (歳)	男性人口 (人)	女性人口 (人)	人口計 (人)
105~109	2	1	3
100~104	2	1	3
95~99	2	1	3
90~94	2	1	3
85~89	2	1	3
80~84	2	1	3
75~79	2	1	3
70~74	2	1	3
65~69	2	1	3
60~64	2	1	3
55~59	2	1	3
50~54	2	1	3
45~49	2	1	3
40~44	2	1	3
35~39	2	1	3
30~34	2	1	3
25~29	2	1	3
20~24	2	1	3
15~19	2	1	3
10~14	2	1	3
5~9	2	1	3
0~4	2	1	3
合計	44	22	66

出所：2018年6月8日付住民基本台帳

図 1 と表 3 は門前地区の人口と世帯数の変化を示したものである。国勢調査データのある 1965 年以降、門前地区の人口・世帯数ともに年々減少している。1965 年以降一貫して続いてきた門前地区の人口の減少は、日本の人口変化とは逆の方向を示してきた。日本全体の人口はずっと増加を示し、2008 年になって初めて減少に転じた。一方で、門前地区の世帯数の減少率はわずかであり、1965 年から 2005 年まではほぼ一定で、2005 年以降に減少率がやや大きくなる。高齢者が都市に住む子どもの家に移動したり、老人ホームへ住民票を移したり、また死亡することで、世帯数の減少となったのだと考えられる。

一方で一世帯あたりの平均成員数（平均世帯人員数）においては、門前地区と日本全体ともに減少を示してきた。1970 年の門前地区の平均世帯人員数 3.85 人に対して全国のそれは 3.41 人であったが、2015 年には門前地区 2.39 人に対して全国 2.33 人となった（全国については「一般家庭」の数字）。両者ともに世帯規模は減少してきたが、門前地区では日本全体よりも急激な世帯規模の減少が見られた。

日本の都市部での世帯規模の縮小が核家族化によるものであることはよく知られているが、門前地区におけるそれは、かつてのより大規模な世帯から若年人口が都市部へと移住して減り、それがさらに出生率の低下をもたらしているためと推測される。歴史的に農業や林業など第一次産業に従事する世帯では、労働力確保のために大規模世帯が多かったが、高度経済成長期（1955～73 年）に若者の多くが門前地区を出てしまったことが影響しているように見える。これらが人口減少の反面で、世帯規模は縮小しながらも、世帯数の減少は小さいという結果につながったと見られる。

図 2 は門前地区（2018 年 6 月 18 日付住民基本台帳による）と日本全体（2015 年国勢調査による）の人口ピラミッドである³。少子高齢化が進む日本全体と比較しても、門前地区はよりその傾向を示していることが分かる。門前地区の人口ピラミッドはより頭でっちなかたちをし、60 から 89 歳までの部分で大きく横に広がっている。60 歳未満だと男女の

³ 総務省統計局 2018『平成 27 年国勢調査 我が国人口・世帯の概観』。

人口は同じか男性がやや多いくらいであるが、60歳以上になると70～74歳の層を除くすべての部分で女性人口が男性人口を上回っている。男性も女性も65～69歳の層が最大値を示している。

我が国の人口ピラミッド（平成27年10月1日現在）

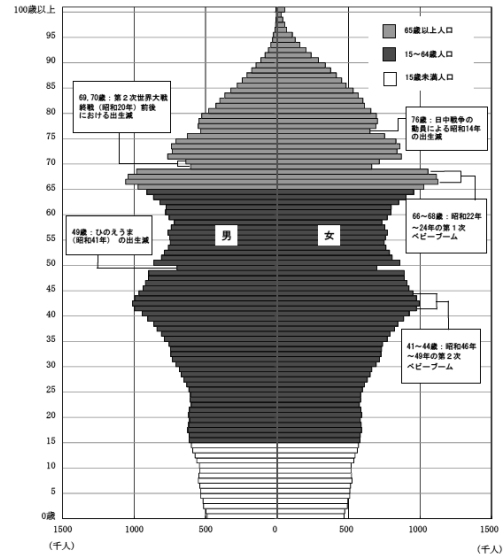
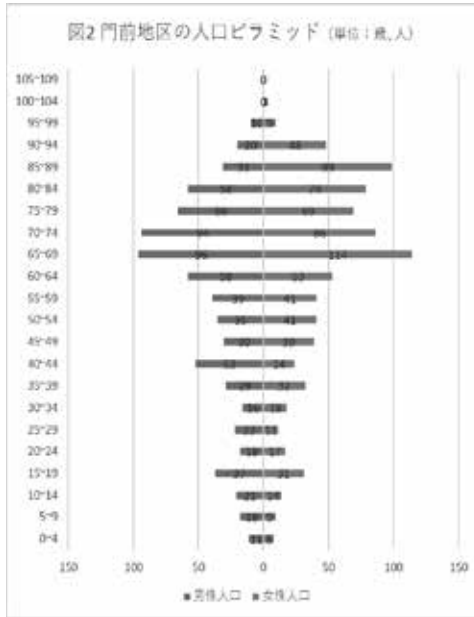


表5 門前地区の人口構成

門前地区	男性（人、%）		女性（人、%）		全体（人、%）		日本全体（%）
0～14歳	50	6.57	31	3.67	81	5.04	12.6
15～64歳	336	44.15	307	36.33	643	40.04	60.7
65歳以上	375	49.28	507	60.00	882	54.92	26.6
計	761	100.00	845	100.00	1606	100.00	100.0

門前地区は2018年6月8日付住民基本台帳、日本全体は2015年国勢調査による

表5は門前地区の男女別人口構成（3層）と日本全体の人口構成（3層）を示したものである⁴。門前地区の男女合わせた満65歳以上の高齢者は882人で高齢化率は54.92%と、日本全体の高齢化率（2015年26.6%）の2倍となっている。なかでも門前地区女性の高齢化率は60.00%と、男性のそれ（49.28%）を大きく上回る⁵。

従属人口指数（15歳未満の年少者と65歳以上の年長者の人口が、生産年齢人口年齢に対

⁴ 総務省統計局 2018『平成27年国勢調査 我が国人口・世帯の概観』。

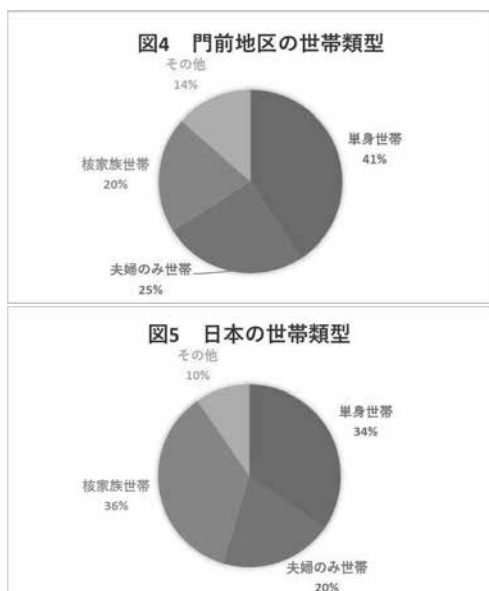
⁵ 総務省統計局 n.d.『平成27年国勢調査 人口等基本集計結果 結果の概要』。

して占める比率)は、日本全体の64.70%(2015年)に比して、門前地区は149.77%である⁶。言い換えれば、働く人1人あたり1.5人の生活を支えているという、大きな負担を示している。将来を担う年少人口の割合(5.04%)も、日本全体(12.6%)の約半分であり、多くの若者が高校を卒業すると地元を離れている傾向を考えると、今後も従属人口指数は高くなるとが予想される。

表6 門前地区と全国の世帯類型

世帯類型	門前地区 (2018年)		全国 (2015年)	
	世帯数 (戸)	割合 (%)	世帯数 (千戸)	割合 (%)
単身世帯	303	41	18,418	41
夫婦のみ世帯	189	25	10,718	25
核家族世帯	153	21	19,036	21
その他	101	14	5,160	14
計	746	100	746	100

出所：2018年6月8日付の門前地区住民基本台帳；2015年国勢調査



門前地区の世帯類型としては、「単身世帯」が最も多く303戸(40.62%)、次いで「夫婦のみ世帯」が189戸(25.34%)、「核家族世帯」が153戸(20.51%)、「その他」101戸(13.54%)となっている⁷。これを日本全国の世帯類型と比較すると、全国では核家族世帯の比率が最

⁶ 総務省統計局 n.d.『平成27年国勢調査 人口等基本集計結果 結果の概要』。

⁷ 2018年6月8日付の門前地区住民基本台帳によると、同地区には758世帯が存在するが、

大で 35.69%を占めるのに対して、門前地区は低い割合（20.51%）になっている。さらに都市では典型的な核家族が、20 から 40 歳代の夫婦と年少の子どもからなるのに対して、門前地区の核家族世帯の 41.18%⁸は、満 40 歳以上の未婚の子を含むタイプの核家族世帯である。言い換えれば、門前地区の核家族世帯は全国のそれよりも、親世代と子世代の両方においてより高齢の成員からなるものだと言えるとともに、地方における結婚難も反映していると考えられる。

3. おわりに

人口と世帯に関するこれらの数字が示すのは、門前地区における少子高齢化の進行である。日本の伝統的な世帯では、娘は結婚して家を出、次男以下の息子も村落外に仕事を見つけて家を出ることが多かった。土地などの限られた家の資産を分割して小さくしてしまうと、農業などの第一次産業は成り立ちがたかったからである。しかし戦後日本の政策は第一次産業よりも第二次産業を重視し、高度経済成長期（1955～73年）をさかいに収入面でも第一次産業は後れを取ってくる。高度経済成長はまた地方の若年・壮年人口を、都市における第二次産業労働者として大量吸収した。集団就職や出稼ぎの増加はその現われである。都市では出生率の低下によって 2008 年より人口減少局面を迎えたが、門前地区の例に見るように、地方では出生率の低下に加えて、高度経済成長期以来顕著になった生産人口の都市への流出が、人口減少の原因となっていた。

現在、門前地区の満 65 歳以上人口は 54.79%と半分を超えている。地元の人たちからしばしば聞かれた、「若者がおらん」「若者は高校を出るところを出て行く。地元の仕事がないから」などの言葉はこのような状況を示している。世帯で見ても、高齢者のみで暮らす世帯は 52.55%にのぼり⁹、日頃の買い物のほか、災害や疾病時に特別なケアが必要なグループを形成している。一方で、聞き取りから明らかになったように、20 歳代を金沢その他の町で過ごした後に地元に戻られた方もおられ、人口移動がまったく一方的なものではないことが分かる。

そのうち 12 世帯は深田区内の特別養護老人ホームに暮らす人々による単身世帯である。この表ではこの 12 世帯を除いて、門前地区の世帯類型を示している。

⁸ 63 戸（核家族世帯 A）を 153 戸（核家族世帯 A と核家族世帯 B の合計）で割った数値。

⁹ 特別養護老人ホームに暮らす 12 世帯（12 名）を除いて計算している。